

曹洞俳壇

選・村松五灰子

那智黒の硯なめらか道元忌

神奈川県 大竹のり子

評 曹洞宗高祖道元さまは、すぐれた歌人でもありました。

有名な「春は花夏ほととぎす秋は月冬雪さえてすずしかりけり」をよまれたのも道元さま、忌日八月二十八日心静かに墨を擦る。

黙礼の車椅子過ぐ菊日和

青森県 高橋 敬子

評 「黙礼」に車上の人の表情の穏やかさと品の良さがあり菊日和が一段と明るさを増している。句柄も穏やかで姿が良

◆艶ばなしちよびりしたる盆の僧 神奈川県 小野沢邦彦

◆コスモスの揺れの間合に遠会釈 島根県 藤江 堯

◆オベ中の夫を待ちをり暮れ早し 神奈川県 小橋 幸

◆解体の迫る本堂白木槿 愛知県 松井 暁見

◆吾亦紅あした死んでも良いやうに 福岡県 井本匡早子

◆青簾あおだれ正座の母の居るやうな 三重県 米野てるみ

◆魚煮る匂ひチチと小鳥来る 秋田県 鈴木 ゆう

◆生きてゐることこそ使命菊枕 埼玉県 小林 茂之

◆風白き集落包む蕎麦の花 兵庫県 内藤 昭子

◆刈残す草が虫宿賑はへり 岩手県 上沖 貞子

*選者吟

初詣神代のご事は知らずとも

五灰子

*作句小見

明けましておめでとうございます。本年も皆さまの一句一句を楽しみにお待ち致します。

「初笑ひ心天地に遊ばせて 柏翠」私の師の句です。かくありたいと思います。

曹洞歌壇

選・長澤 ちづ

見つからぬ児は竜宮に遊べるや波をすくいて涙する女ひと
宮城県 小田島麻利

評 東日本大震災で行方不明の方たちが未だに大勢いることに胸が痛む。「見つからぬ児」は祖母におぶわれたまま津波に攫われてしまったと付記されていた。せめて竜宮でたのしい思いをという切ない願いを、作者は掬い上げている。

気まぐれにまばらに咲ける萩の花風が揺らせば秋と言ふなり
岐阜県 後藤 進

評 秋の気配はかそかに感じられるもので、その微妙な空気を伝えて巧みな一首。萩の花に秋と言わせ、それも「風が揺らせば」という条件つき、夏をまだ揺曳ようえいしている。

- ◆長靴が重といった父の歳に近づきて我ようやくやくわかる
長野県 毛涯 潤
- ◆稲刈のはじまる棚田の畦垣を塗り込むこと彼岸花咲く
福岡県 三吉 誠

◆返り咲く花の心を心とし我が九十歳を励みて暮す
北海道 佐賀 ユリ

◆退屈な馬が小屋蹴る雪籠り農学校の冬の休みに
秋田県 小田篤恭葉

◆画学生らしきが降りる大宇陀のバス停すなわち秋草の中
三重県 野呂 志

◆竹林の道を上れば庵あり梅の古木が主なるらし
長野県 漆戸 栄子

◆屍も塚も無きあとコオロギのまぼろし有りて踏むをためらう
山口県 横川美代子

◆歌一つ拾はむと歩む朝明けの小道に香る野菊一群
福井県 三浦 豊子

◆遠き日の母かも知れぬなつかしき声でわが名を呼んだ気がする
鳥取県 峰地 三義

◆アンテナに暫し憩いて夕がらす風の家路はきびしからうに
愛知県 田中 澤子

*選者詠

むらさきの山りんどうは色濃くて夕かげるとき目を閉ざしたり
ちづ

*作歌小見

野呂さんの作品の画学生と秋草の取合せの妙にも注目しました。大宇陀は奈良県の丘陵地帯、万葉集にも詠われ地名も生きています。横川さんの幻想そのものの世界にも惹かれます。「踏む」が現実との接点になっています。



大本山永平寺



新春

皆さまにおかれましては、清らかな新春をお迎えのことと思います。年頭にあたり、先ずは本年のご多幸を「ご祈念申し上げます。さてここ永平寺では正月の雰囲気が落ち着いた一月二十六日、道元禅師さまのご生誕に因み「高祖降誕会」が厳かにつとめられます。道元禅師さまは正治二（一二〇〇）年一月二十六日に京都で生を得られたと言われていますが、なぜ今もご生誕を祝うのでしょうか。

嬉しくも釈迦の御法（みのり）にあふひ草

かけても外（ほか）の道をふまめや

『傘松道詠』

「よくよくの宿善によって仏法の縁にあうことが出来た我々は、どうして仏道以外の道を歩むことが出来ようか。そのようなことは決して出来ない」と仏法に出会えた喜びと強い信仰の気持ちを道元禅師さまは詠（よ）まれています。

誕生はすべての始まりです。釈尊のご生誕により仏教が生まれ、たからこそ、我々は仏縁を賜（たま）うことが出来るのです。

さらには道元禅師さまより正伝（しょうでん）の仏法が日本へ伝わり、永平寺が建立され、七七〇年を経て今も修行を続けることが出来るのです。だからこそ、そのご生誕に対し報恩感謝の念をもって修行僧は法要に臨むのです。

ご本山だより



大本山總持寺



二祖^{がさん}峨山禪師さま六百五十回大遠忌の幕開け

新しい年を迎えました。皆さまのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

さて、本年はいよいよ峨山禪師さま大遠忌^{しよとど}の年です。すでに昨年より報恩の法要や行持が始まっていますが、年が明けると改めて引き締まった気分になります。

一年をとおして全国各地から大勢の方々^がが峨山禪師のお徳に触れようと訪れます。読者の皆さまもどうぞお誘い合わせいただき、是非とも總持寺の大遠忌法要にお参りください。

さて、總持寺の新年は大梵鐘の撞き初めから始まります。その音色は、あたかも峨山禪師さまの大遠忌を祝うかのように聞こえます。この大梵鐘を皮切りに三宝殿や香積台^{さんせきだい}の大黒尊天、大駐車場での車祈祷など境内あちこちで御祈祷が賑やかに修されます。

ところで、大遠忌にあわせ本年三月末まで大祖堂^{だいそどう}の改修工事が進められており、この期間の法要は主に紫雲臺^{しうんたい}で行われます。

そのため、元旦^{げんたん}の祝禱^{しほく}調経^{てうけい}や御祈祷法要は仏殿^{ぶつでん}で行われ、朝のお勤めは紫雲臺で行われます。

大遠忌正当を迎えた總持寺は、さらなる発展と震災からの復興を願いつつ、檀信徒とともに大いなる足音を響かせてまいります。

大本山總持寺／045-581-6021